

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : アセトン
 会社名 : 関東化学株式会社
 住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-2-1
 担当部門 : 電子材料事業本部 技術部
 電話番号 : (03)6214-1080
 F A X 番号 : (03)3241-1043
 メールアドレス : el-info@gms.kanto.co.jp
 整理番号 : GE00001

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分2
 自然発火性液体 : 区分外
 金属腐食性物質 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外
 急性毒性（経皮） : 区分外
 急性毒性（吸入：蒸気）

: 区分外

皮膚腐食性・刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

: 区分2 B

皮膚感作性 : 区分外

生殖毒性 : 区分2

特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）

: 区分3（気道刺激性）、 区分3（麻酔作用）

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）

: 区分1

環境に対する有害性

水生毒性（急性） : 区分外

水生毒性（慢性） : 区分外

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性の高い液体および蒸気

眼刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

呼吸器への刺激のおそれ
 眠気およびめまいのおそれ
 長期または反復暴露による中枢神経系、呼吸器、消化管の障害

注意書き

安全対策

- : 取扱い注意事項をよく読み、理解してから取り扱う。
- 熱、火花、裸火などの着火源から遠ざける。
- 容器は密閉する。
- 移送、攪拌する場合は、容器および受器をアースする。
- 防爆型の機器を使用する。
- 火花を発生しない工具を使用する。
- 粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。
- 換気の良い場所でのみ使用する。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。
- 取扱い後はよく手を洗う。

救急処置

- : 吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
- 眼に入った場合：流水で数分間洗い流す。医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
- 取り扱った後、手を洗う。
- 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の処置を受ける。
- 気分が悪いときは、医師の処置を受ける。

保管

- : 容器は密閉して換気の良い場所で保管する。
- 施錠して保管する。

廃棄

- : 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 単一製品
- 化学名又は一般名 : アセトン
- 別名 : ジメチルケトン
- 成分及び含有量 : アセトン 99.8%以上
- 化学特性（示性式） : CH₃COCH₃
- 官報公示整理番号
- 化審法 : 2-542
- 安衛法 : 公表
- CAS No. : 67-64-1
- 危険有害成分 : アセトン

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。

飲み込んだ場合 : 揮発性があるので、吐き出させるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。

予想される急性症状及び遅発性症状

: 吸入すると、唾液分泌過多、顔面紅潮、咳、めまい、し眠、頭痛、咽頭痛、意識喪失、吐き気、嘔吐などを起こす。

応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水、粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡

使ってはならない消火剤 : 特になし

特定の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。

初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。

消火を行う者の保護 : 呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

回収、中和 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。

作業場所の換気を十分行う。

静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実にを行う。

注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。

安全取扱い注意事項 : 酸化剤と接触させない。

保管

適切な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス
塩化ビニル樹脂、アクリル樹脂、ポリスチレンなどは使用しない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

管理濃度 : 500ppm

許容濃度

日本産業衛生学会 (2016年度版)

	: 200ppm、470mg/m ³
ACGIH (2015年度版)	: 250ppm(TLV-TWA) 500ppm(TLV-STEL)
保護具	
呼吸器用の保護具	: 防毒マスク (有機ガス用) または送気マスク
手の保護具	: 不浸透性保護手袋
眼の保護具	: ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣 (長袖作業衣)、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

形状	: 液体
色	: 無色
臭い	: ケトン臭
pH	: データなし
沸点	: 56.13°C
融点	: -94.7°C
引火点	: -18°C
発火点	: 561°C
爆発特性	
爆発限界	: 上限 : 12.80vol% 下限 : 2.55vol%
蒸気圧	: 233hPa (20°C)
蒸気密度	: 2.0
密度	: 0.79g/cm ³ (20°C)
溶解性	
溶媒に対する溶解性	: 水 ; 自由に混合 有機溶媒 ; エタノール、ジエチルエーテルなどの多くの有機溶剤と混合
オクタノール/水分配係数(log Pow)	: -0.24
その他のデータ	: 粘性率 : 0.316cP (20°C)

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常条件で安定である。
反応性	: 無水クロム酸、塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸などと激しく反応し、発火することがある。
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 : 区分外 経皮 : 区分外 吸入 (蒸気) : 区分外 吸入 (粉塵・ミスト) : データ不足のため分類できない ラット 経口 LD50>5000mg/kg
------	--

- ラット 吸入 LC50=32000ppm
ウサギ 経皮 LD50>5000mg/kg
- 皮膚腐食性・刺激性 : 区分外
アセトンは、ウサギの皮膚に対して刺激性はない。
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 眼に対して刺激性がある(区分2B)
蒸気は人の眼を刺激するが、暴露が止まると刺激性は続かない。ウサギでは severe という結果が報告されている。角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではないので区分2Bとした。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性：データ不足のため分類できない
皮膚感作性：区分外
モルモットを用いたマキシマイゼーションテストにおいて皮膚感作性は認められなかった。
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない
アセトンはin vivo小核試験で陰性である。
- 発がん性 : データ不足のため分類できない
ACGIHではA4（ヒト発がん性に分類できない物質）に分類している。
- 生殖毒性 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
アセトンは、疫学調査で流産への影響なしという報告がある。ラットの高濃度暴露(11000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)が、マウスの高濃度暴露(6600ppm(15.6mg/L))で胎児体重減、後期胚吸収率が報告されている。
- 特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : 呼吸器への刺激のおそれ・眠気またはめまいのおそれ(区分3)
アセトンは、ヒトへの12000ppmの暴露で喉の刺激、1190、2400mg/m³/6hの暴露で鼻、喉、気管の刺激、1000ppm/4hの暴露で喉の刺激の記載により、区分3(気道刺激性)、200mlを飲み込んだ男性に昏睡(12時間後意識回復)、12000ppm暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神の記載より区分3(麻酔作用)に分類した。
- 特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : 長期または反復暴露による中枢神経系、呼吸器、消化管の障害(区分1)
ヒトでは本物質700 ppmに3時間/日、7-15年間、吸入ばく露された作業員において、職業ばく露による影響として、めまい、脱力感とともに呼吸器、胃及び十二指腸に炎症がみられた(ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol.7(1996))との記述があり、ATSDR Addendum(2011)による再評価でも、ヒトでの本物質ばく露による標的臓器は呼吸器、消化管、神経系が中心であると報告されていることに基づき、区分1(中枢神経系、呼吸器、消化管)とした。
- 吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため分類できない
動粘性率は計算値で0.426mm²/secであり、化学性肺炎の動物データが無いが、C13以下のケトンであるが、データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報
- 生態毒性
- 魚毒性 : 水生毒性(急性)：区分外
水生毒性(慢性)：区分外
魚類(ファットヘッドミノー) LC50>100mg/L/96H
- 残留性/分解性 : 微生物などによる分解性が良好と判断される物質である。

96% by BOD

生体蓄積性 : 魚介類の体内において濃縮性または蓄積性がない、あるいは低いと判断される物質である。

土壌中の移動性 : 非常に高い移動性を有すると予想される。(Koc:2.4)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

容器 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制

消防法 : 危険物第4類引火性液体第1石油類水溶性液体

道路法 : 施行令第19条の13 (通行制限物質)

船舶安全法 : 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類

航空法 : 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類

国連分類 : クラス3 (引火性液体) 等級II

国連番号 : 1090

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号 : 127

海上規制情報

UN No. : 1090

Proper shipping name : ACETONE

Class : 3

Sub risk : -

Packing group : II

Marine pollutant : Not applicable

航空規制情報

UN No. : 1090

Proper shipping name : Acetone

Class : 3

Sub risk : -

Packing group : II

15. 適用法令

化審法 : 優先評価化学物質

消防法 : 危険物第4類引火性液体第1石油類水溶性液体 (400L)

化学物質管理促進法 : 非該当

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法 : 施行令第18条名称等を表示すべき危険物及び有害物
 施行令第18条の2名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令第17号)
 施行令別表第1危険物 (引火性の物)
 政令別表第6の2有機溶剤中毒予防規則 (第2種有機溶剤)

海洋汚染防止法 : 施行令別表第1有害液体物質 (Z類)
船舶安全法 : 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類
航空法 : 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類
港則法 : 施行規則第12条危険物告示引火性液体類

16. その他の情報

引用文献

溶剤ハンドブック、浅原照三 他編、講談社 (1976)

化学物質の危険・有害物便覧、厚生労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会 (2000-2001)

Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed. N. I. Sax他編
Van Nostrand Reinhold Company (1984)

危険物ハンドブック、ギュンター・ホンメル編 シュプリンガー・フェアラーク東京 (1991)

16817の化学商品、化学工業日報社 (2017)

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート (SDS) は、JIS Z7253に基づいて作成しており、JIS Z7250:2010に基づいて作成した製品安全データシート (MSDS) と記載事項は同一です。